

12/16-22#3 キリストを私たちの王、私たちの主、私たちのかしら、私たちの夫として受け入れ、経験し、享受して、キリストのからだを建造し、新エルサレムを究極的に完成することによって、新約の務めの実際の中へと入る**CP1** キリストを私たちの王として受け入れ、経験し、享受する

A 私たちの霊的な経験における最も高い点は、澄み渡る空とその上の御座を持つことです。エゼキエル1:22 また、生き物の頭の上に大空のようなものがあり、畏るべき水晶のように輝き、彼らの頭の上に広がっていた。26 また、彼らの頭の上にある大空の上に御座のようなものがあり、サファイア石の外観のようであった。そして御座のようなものの上に、人のような外観の方がその上におられた。**2** 私たちと主の間に何の妨げもなく、また私たちと互いの間に何の妨げもないとき、私たちの空は水晶のように澄み渡ります。そして、私たちは正しい良心を持つだけでなく、純粋な良心も持ちます。**B** 御座は宇宙の中心であり、主の支配する臨在です。私たちの霊の中の御座は、実はキリストご自身です。啓22:1 また御使いは、水晶のように輝く命の水の川を私に見せた。それは神と小羊の御座から、大通りの中央を流れていた。**2** 澄み渡る空の上に御座を持つことは、私たちのクリスチャン生活の中で神に最も高く最も卓越した地位を持っていただくことです。私たちの霊的経験において、澄み渡る空の上に御座を持つ点にまで到達するとは、私たちがあらゆる事において、神の権威と行政に完全に服従することを意味します。

証 私はキリストを救い主として受け入れ、救いを享受した後、1年後位から、主を王とし、主に服従するように内側で促しを感じ始めました。しかし、私は神のエコノミーを理解しておらず、主を王として受け入れる予定がありませんでしたので、内側の主に反対し、主と主導権争いをしていました。私が主を王としないで、自分を王としている時、薬剤師の国家試験の勉強に集中できず、無力で死んでいる状態に陥りました。私は主に頼り、主と共に勉強し祝福された大学院の受験の経験を忘れていました。その結果、私は国家試験に不合格になりました。薬学部の学生にとって、更に大学院生にとって、これは大変恥ずかしく、悲惨なことでした(結局、主の助けにより、半年後に国家試験に合格できました。主に感謝します)。私はこのような経験から、聖書の啓示を再考し、「実は、神の王国とサタンの王国しか存在せず、私の王国とは実際にはサタンの王国である」ことに気付きました。また、ヨハネ15:5「私を離れては、あなたがたは何もすることができないからである」、ローマ8:6「肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です」を

思い出しました。**FN** 思いを霊に付けるなら、私たちの外側の行動と内側の人は一一致し、私たちと神との間に、何の食い違いもなくなります。私たちと神は平和であり、敵対はなく、私たちは内側に平安を感じます。私たちの思いを肉や肉の事柄に付ける時、その結果は死です。それは、私たちが神を享受することから引き離されていると、私たちに感じさせます。私たちには平安な、生きている感覚はなく、不安と死を感じます。私たちが肉のことを思い、思いを肉の事柄に付けている時、死の感覚は私たちに警告として働き、私たちが肉から救い出されて、霊の中で生きようと促します。

サタンに打ち勝つために他に方法がないので、私は主を王として受け入れ、経験し始めました。しかし最初の内は主を王として享受するまでには至りませんでした。多くの失敗と主の憐みと恵みにより、私は自分が主の中で王として支配するために、先ず主を王として受け入れ、彼に服従する必要があることを理解しました。私は祈りました、「おお主イエスよ、私はあなたを救い主としてだけでなく、王として受け入れ、経験し、享受します。サタンは、高ぶりと反逆のゆえに、神の敵になってしまいました。私はここで、サタンの策略から離れ、サタンの反対の証を立てます。私は主を命とし、絶対的に主に服します。それは、神のエコノミーの中で、私が命の中で王としてサタンを支配するためです」。ローマ5:17 あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。

CP2 **III** 私たちはキリストを私たちのかしらとして受け入れ、経験し、享受するエペソ1:10 キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとされたのです。**A** 私たちがキリストの中でかしらにつり上げられることは、天使たちの反逆と人の反逆によって引き起こされた、死と暗やみの中にある宇宙的な崩壊の堆積から私たちを救い出します。信者たちがキリストのかしらにつり上げることにあずかるのは、召会生活の中で進んでかしらにつり上げられることによってであり、命において成長することによってであり、キリストの光の下で生活することによってです。**D** 私たちは御父に求めて、私たちを内なる人の中へと増強していただかなければなりません。それは、キリストが信仰を通して、私たちの心の中に、力をもって、ご自身のホームを造るためです。この力は、①キリストを死人の中から復活させた力、②キリストを天上で神の右に座らせた力、③万物を彼の足の下に

服従させた力、④彼を万物の上にかしらとして召会に与えた力です。3:16 どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してくださいませうように。17 またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。B神は、私たちの中で活動するこの四重の力にしたがって、私たちがキリストのからだとしての召会に関して求め、また思うすべてを、はるかに超えて豊かに行なって、召会の中で神の栄光が現されるようにすることができます。

CP3IV 私たちはキリストを私たちの夫として受け入れ、経験し、享受しなければなりません

雅歌の中のロマンスは、A 私たちと主との関係が個人的なもの、B 愛情深いもの、C 私的なものでなければならぬことを描写しています。雅1:2 彼の口の口づけをもって、私に口づけしてください! あなたの愛はぶどう酒にまさるのです。4 私を引き寄せてください。私たちはあなたの後を走ります。王は私を彼の奥の間に連れて行かれた。「私たちはあなたの中で喜び楽しみ、ぶどう酒にまさってあなたの愛をほめたたえます。彼女たちは一心にあなたを愛します。

C1 私たちはひそかで、具体的で、効果のある方法で、私的に主と接触し、主と時間を費やし、私たちの全存在を主に開いて、主の照らしと注入を受けなければなりません。それによって、私たちは神をもって光を放ち、神を輝かし出すことができます。

3 私たちは自分たちが遭遇するあらゆる問題に関して、主の助言を求めなければなりません。私たちはあらゆる事柄を主にもたらし、主の御前で、また主との交わりの中で、物事を考え、調べ、決定しなければなりません。4 この面で、あらゆる信者が必要とするのは、自分が遭遇することに関して主と接触し、主に相談し、主に決定していただくことなしに、自分自身の考えを持たず、自分自身の決定をせず、いかなる行動も取らないという程度にまで弱くなることです。これがクリスチャンの最も甘い生活です。

証 私は40歳になる前に救われました。この年齢になると、仕事においても細かな指示や指摘をされなくなり、自分の考え方のパターンが固まっていた頃でした。またこの世の表面的で形式的な人間関係や、噂話、批判、分裂、分派ばかりの堕落した人との繋がりに嫌気がさしていました。しかし、召会生活に入ってきて、そのすばらしさに大変驚きました。ここでは年齢、性別、国籍、学歴、職業、考え方など様々な聖徒たちで成り立っているながら、共に交わりを持ち、一つ心で調和され、主の豊富を享受し、主を追い求めています。これは私がそれまで経験してきた事と比較すると奇跡的な事です。

召会生活の中で特に奉仕をする時に多くの学びがあり、愛の中で主の豊富を享受しました。召会において外側で真似事をして私自身は生養教建の為に供給するものは何も無いこと、かえって弱さや人の心を乱すものしか無いことが照らされ、次のように祈りました、「おお主イエスよ、私には何もない事が照らされましたが、私がこの事を認める事や自分を変える勇氣すらありません。私に主の死と復活の力を与えて、主の命で造り変え、建造に役立つものとして下さい」。すると、徐々に召会を組織や律法で見るのではなく、兄弟姉妹や子供たちを命において成長する喜びの中で見る事ができるようになり、少しずつですが道理ではなく命の観点で享受し供給できるようになりました。消極的な問題があっても、その度に主と交わることを学び、また導く兄弟の交わりを兄弟姉妹や自分自身の命の成長のチャンスと捉える事ができるようになってきました。召会生活の中の奉仕の組み合わせにおいて、自分の天然の感覚にとどまるのではなく、主に開いて、主と親密に交わり、兄弟姉妹と共に前進することができました。

CP4IVD 雅歌の中のロマンスは、私たちと主との関係が霊的なものでなければならぬことを描写しています:雅1:4 王は私を彼の奥の間に連れて行かれた。1 キリストは霊的に私たちを訪れます。なぜなら、彼は私たちの霊の中の命を与える霊であるからです。私たちの霊は至聖所であり、それは主の主また王の王としての霊なるキリストの奥の間です。

2 エペソ人への手紙においてパウロが示しているのは、キリストのからだのためにキリストと接触し、キリストを享受するために、私たちは霊を活用しなければならぬということです。エペソ6:18 どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし...

3 ローマ人への手紙においてパウロが強調しているのは、私たちであるすべて、私たちが持っているすべて、私たちが神に対して行なうすべては、私たちの霊の中になければならぬということです。ローマ8:5 なぜなら、肉にしたがっている者は、肉の事柄を思い、霊にしたがっている者は、その霊の事柄を思うからです。

7:6 私たちは文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で仕えているのです。

祈り おお主イエスよ、あなたを愛します。あなたを私の夫として受け入れ、経験し、享受します。あなたは私の霊の中の命を与える霊であり、霊的に私を訪れてくださいます。私の霊は至聖所であり、それは主の主また王の王である霊なるキリストの奥の間です。あなたのからだのために、霊の中で親密にあなたと交わり、あなたを享受します。